



シリーズ
タンチョウ
Vol. 343

鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ

吉田 裕志
〒085-1205 鶴居村中雪裡南 ☎64-2620/FAX64-2239

鶴居 タンチョウ 検索



「牛のエサをタンチョウから守ろう！」 サルルンガードの秋のイベント

タンチョウコミュニティが世話役を務める村の子どもたちの自然体験グループ「サルルンガード」では、自分たちの暮らす鶴居村や身近な釧路湿原について理解を深めてもらおうと様々な活動を行なっています。そのサルルンガードのイベント「牛のエサをタンチョウから守ろう！」が11月5日に行なわれました。

もう3年も前の話になりますが、村内の農場のスタックで、コーンサイレージを作るために被せているシートをタンチョウが突いて穴をあける被害が発生しました。広報つるいのシリーズタンチョウでも、農業被害を食い止めようと活動している話を書かせてもらいました（令和3年2月号）。あの時、スタックからタンチョウを追い払うのがあまりに大変で「スタックシートにタンチョウの嫌がる絵を描いたら飛来しないかもよ」なんて話を皆でしたものです。

この秋は、その時と同じ場所でコーンサイレージを作っています。そこには、シートを被せた長細い丘が何本もあって、その中でコーンサイレージは1本だけです（他は牧草サイレージ）。そのコーンサイレージに被せてあるシートにタンチョウが嫌がる絵を描くのが、今回、子どもたちに課せられたミッションです。

事前のレクチャーで、タンチョウとキツネなどの動物の絵は描かないというルールが伝えられています。気が強いタンチョウが、シートに向かってグサグサと攻撃を仕掛ける可能性があるからです。タンチョウは赤が嫌いなこと、鳥は目玉模様が嫌いかもしれないことも伝えてあります。もちろん人が近づくと逃げることも子どもたちは知っています。あとは子どもたちの自由です。ペンキの色は赤・黒・黄。現地で見守る農場の社長さんから「ダイナミックに描いてください」と言葉をかけていただいたのも功を奏して、作業開始1時間半後には、全面に思い思いの絵が描かれたスタックと、ペンキだらけの子どもたちの笑顔を見ることが出来ました。

今回の取り組みは、事前に効果を検証した訳ではありません。それでも、農場の社長さんは「まずは、やってみることが大事」と、子どもたちの活動を快く受け入れて下さいました。活動の終わりには「みんなが頑張っ

て頑張っ

このあと、タンチョウが飛来する季節を迎え、今回の活動が吉と出るか凶と出るか、それとも全く意味はなかったかは、現段階では分かりません。ただ、タンチョウの農業被害を食い止めようと子どもたちが頑張る様子と、それを見守る大人の姿に、タンチョウとの共生を目指す鶴居村の向かう先が見えた気がしました。



絵が描かれたスタックの前で記念撮影